

修士論文要旨

高齢者福祉の現場における 宗教者の関わりについて一考察

三 上 暢

序 論

本 論

第一章 「ビハーラ」の定義と展開

第一節 「ビハーラ」提唱の時代背景

第一項 田宮仁の提唱した「ビハーラ」

第二項 「ビハーラ」の四つの側面

第二節 「ビハーラ」活動／運動の展開―谷山・打本理論を参考にして―

第一項 「ビハーラ」の展開―分類分け

第二項 ビハーラ僧の役割

第三項 長岡西病院のビハーラ僧の活動から見る役割

第二章 臨終行儀書から学ぶ看取りの心得

第一節 臨終行儀書から見る宗教者の関わり方

第一項 源信の『往生要集』

第二項 『横川首楞嚴院二十五三昧起請』

第三項 良忠の『看病用心』

第二節 臨終行儀書に学ぶ現代的な関わり方

第三章 高齢者福祉の現場における宗教者の役割

第一節 高齢者と関わる―スピリチュアルケアと宗教的ケア―

第一項 スピリチュアリティとは何か

第二項 スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違点

第二節 高齢者施設での宗教者の関わり

第三節 在宅療養における宗教者の関わりについて

結 論 まとめ表資料

序 論

高齢者福祉の現場において、宗教者である仏教僧侶が可能な役割は何であろうか。

日本における高齢者数が増加の一途を辿るなか、終の棲家として、病院や高齢者施設、自宅

など、看取りの場・状況は多種多様である。そしてどんな場所で過ごそうと、人間の生死の悩みは尽きることはなく存在している。祖母の自宅介護を体験してから、筆者には「介護と仏教」の問題は身近に感じられ、高齢者福祉の現場において「人間の生老病死の四苦のうち、とりわけ老病死の分野と向き合う」役割ができないかと考えてきた。

本稿は、近年の「ビハーラ」活動／運動を通して、高齢者福祉の現場における宗教者の役割を考察したものである。まず、第一章において「ビハーラ」の目的と意義を探る。そして、長岡西病院の僧侶の活動から、終末期の人に対する僧侶の役割を考察する。第二章は、臨終行儀書から「宗教者の介護・看病の心得」を考察する。第三章は「スピリチュアル／宗教的ケア」に焦点をあて、実習での経験も交えながら、宗教者の関わり方について考察する。

なお、本論における「高齢者福祉」とは特別養護老人ホームなど的高齢者施設や、グループホーム、在宅介護を指している。さらに、第三章においては、「僧侶など宗教的専門職だけでなく、檀信徒や信者」を含んだ形で、宗教者の関わり方を模索するものであることを示しておく。

まず、ビハーラの定義について田宮仁の提唱した「ビハーラ」について述べた。

当初、田宮の提唱した「ビハーラ」は医療の分野で活動し、社会の諸問題に対してビハーラは行われていなかった。田宮には医療の分野だけでなく、仏教が持つ力を発揮し、社会問題に対応する活動にまで広げようとした意図があった。ビハーラは社会の認知度が低いものの、一部の熱心な宗教者によって活動された。ただし、ビハーラ運動／活動の範囲が拡大したため、本稿では自身の「ビハーラ」の活動領域を明確にし、高齢者福祉の分野における宗教者の役割という範囲で考察した。

自身の問題意識から、活動内容を明確にするため、主に長岡西病院で活動するビハーラ僧の論文から、高齢者福祉でも参考にできる活動内容を考察した。長岡西病院ではビハーラ僧は正規スタッフとして働き、宗教者として関わる接点が多い。また、常勤ビハーラ僧とボランティアビハーラ僧の役割が明確にされており、宗派を超えて協力できるようなシステムが作られている。加えてビハーラ僧には、言語化し難い部分があることも挙げられる。日常の業務など可視化出来る役割だけでなく、「宗教的な雰囲気」を作り出すことも、僧侶がいることのアイデンティティである。以上を踏まえた上で、ビハーラ僧の関わり方について以下の三点にまとめた。①個々のニーズに合わせた柔軟な対応。②生活の場に溶け込み、日頃からの信頼関係作り。③僧侶のいる風景作り（宗教的“場の雰囲気”）

以上のことを述べ、高齢者福祉の現場における宗教者の関わり方について考察した。

第二章で論ずる臨終行儀書とは、仏教思想を基盤として、臨終に臨んだ人の心得と、看取りの作法について記されたものである。単に儀礼や心構えが示されているだけでなく、病人を看

取るための具体的な方法も描かれている。

臨終行儀は、近年では仏教的ターミナルケアの原型として注目されている。臨終行儀書に書かれている内容から、宗教者が立つべき基本的立場を考察した。

源信の『往生要集』と『横川首楞嚴院二十五三昧起請』、良忠（1199-1287）の『看病用心』、これら三点の臨終行儀書から考察し、現代でも参考にできる心得を以下の三つにまとめた。①病人の落ち着ける場の設置②病人を孤独にしない③病人の世話から学ぶ

第三章は宗教者が果たす役割として、スピリチュアル／宗教的ケアに焦点をあててまとめた。

また、筆者は高齢者施設（特養）と在宅療養（訪問看護）に実習で訪れた経験があり、その経験を交えながら、高齢者福祉の現場における宗教者の役割を考察した。

実習の経験から筆者は、高齢者のスピリチュアルケアだけでなく、家族や、医療・福祉で働くスタッフのスピリチュアル／宗教的ケアも重要であると感じた。また、地域の檀信徒や、医療・介護スタッフに仏教への理解を深めてもらわなければならないと感じた。

宗教者が果たす役割は、職員・家族の手が回らないところを手伝うなど、全人的な関わり方が必要である。そして宗教者の役割の中心は、生老病死の四苦を訴える人の話を傾聴し、寄り添うことである。特に、スピリチュアル／宗教的な悩みを聞くことが重要であると感じた。

本論文では、長岡西病院での僧侶の活動、臨終行儀の僧侶の関わり方、医療・福祉の現場での実習から考察した。

長岡西病院のビハーラ僧の活動から、看取りの場に宗教者がいる文化を形成することが求められていると考えられる。日頃の寺院活動によって信頼関係を築き、スピリチュアル／宗教的な悩みを聞くことが、僧侶本来の在り方である。僧侶として活動するに当たって、ビハーラ活動を通して地域との関わりも相乗的効果が深まる。

次に、臨終行儀の考察から、現在でも僧侶の関わり方として必要だと思われるのは、①臨終期の人が落ち着ける空間を作り、身辺を清潔に保つこと、②平生から命終後まで配慮して看取りを行うこと、③スピリチュアル／宗教的な訴えに対応できる宗教者が寄り添うこと④臨終の人を気遣い、要望に沿うこと、⑤臨終の人の世話から自分の生死を見つめること、が挙げられる。現在の高齢者福祉施設での対応と共通性があると思われた。

医療現場（訪問診療）と福祉現場（特養）の実習の経験から、高齢者のスピリチュアル／宗教的な訴えに寄り添うことと、家族やスタッフのケア、医療・福祉スタッフの仏教が必要だと考察した。日常から地域住民や医療・福祉分野のスタッフと接点を持ち、仏教の理解を深めてもらう活動を行う必要性を感じた。

医療・福祉の現場で働く人たちは、スピリチュアル／宗教的な領域を学ぶ機会が少ない。また老病死の現場では、特にスピリチュアル／宗教的ケアが出来る人材がいないと思われる。だ

からこそ、宗教者が力を発揮する領域であるということが改めて認識された。

今回の経験を、日常生活での門徒との関係や、地域の病院・福祉施設との連携などに生かしていくことが大事だと思われる。地域社会や、門徒、医療・福祉施設のスタッフと関係を作っていく、スピリチュアル／宗教的なケアに関心を持ってもらうように努め、日常の教化活動を深めていかなければならないと感じた。

今後、地域社会での宗教者の役割を念頭に置きながら、医療や、高齢者福祉の現場でも活動していきたいと考えている。

参考文献

- 田宮仁 長谷川匡俊 宮城洋一郎編『仏教と福祉』溪水社 1994
 田宮仁『ビハラの提唱と展開』学文社 2007
 神居文彰・田宮仁・長谷川匡俊・藤原明子著『臨終行儀—日本的ターミナルケアの原点』溪水社 1993
 浄土真宗本願寺派総合研究所教学伝道研究室『浄土真宗聖典全書一』本願寺出版社 2013
 伊藤真徹『日本浄土教文化史研究』隆文館 1975
 編井上永幸・赤野一郎『ウィズダム英和辞典 第三版』三省堂 2013
 清水哲郎『人生の終わりをしなやかに』三省堂 2012
 中村元『慈悲』平楽堂書店 1956
 窪寺俊之『スピリチュアルケア学概説』三輪書店 2008
 窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店 2000
 鍋島直樹『アジャセ王の救い』方丈堂出版 2002
 樹心の会編『死を看とる心：仏教・ホスピス・脳死』永田文昌堂 1986
 浄土宗総合研究所『ターミナルケアの手引き お見舞い・看取り・グリーフワーク』浄土宗総合研究所 2000
 小原仁著『源信』ミネルヴァ書房 2006
 勸学療編『釈尊の教えとその展開—インド編—』本願寺出版社 2008
 石田瑞麿『源信』岩波書店 1970
 教学伝道センター『注釈版聖典七祖篇』本願寺出版社 2013

参考論文

- 谷山洋三「スピリチュアルケアをこう考える—スピリチュアルケアと宗教的ケア—」『緩和ケアvol. 19 No. 1』文栄社 2009
 谷山洋三「死の不安に対する宗教者のアプローチ」『四天王寺国際仏教大学紀要』38 2006
 谷山洋三「仏教福祉学のキーワードを探る その2・苦」『仏教社会福祉学年報』34 2003
 谷山洋三「ビハラ運動／活動の展開」『医学のあゆみ』vol. 231 No. 2 2009
 谷山洋三「ビハラとは何か?—応用仏教学の視点から—」『パーリ学仏教文化学』19 2006
 谷山洋三「死の不安に対する宗教者のアプローチ」『四天王寺国際仏教大学紀要』38 2006
 打本弘祐「スピリチュアルケアの諸相(1)」『桃山学院大学社会学論集』44 2011
 打本弘祐「親鸞浄土教におけるスピリチュアルケア理論構築に向けて」『桃山学院大学社会学論文集』47 2013
 打本弘祐「医療臨床における僧侶の役割についての一試論」『印度學佛教學研究』58 2009

- 長崎陽子「臨終行儀書における介護・看護者の心得」『日本仏教社会福祉学会年報』43 2012
- 田畑正久「現代医療におけるビハーラ運動（3）」『自照同人』自照社 2013
- 森田敬史「ビハーラ病棟での実践から見えてくる仏教者の役割」『日本仏教社会福祉学会年報』40 2010
- 森田敬史「ビハーラ僧の実際」『人間福祉学研究』3 2010
- 村瀬正光「緩和ケア病棟における宗教者の活動の現場—ビハーラにおけるビハーラ僧—」『日本仏教社会福祉学会年報』43 2012
- 島岩「仏教的ターミナルケアとしてのビハーラ運動」『北陸宗教文化』17号 2005

参考資料

- 平成24年版 高齢社会白書 <http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/index.html>
- 中外日報「<http://www.chugainippoh.co.jp/NEWWEB/n-shasetu/11/1111/shasetu111129.html>」2014年
- 浄土真宗本願寺派社会部HP「http://social.hongwanji.or.jp/html/c11p9_23.html」
- 浄土真宗本願寺派社会部HP「<http://social.hongwanji.or.jp/html/c11p3.html>」2014
- 日蓮宗NVN「<http://www.nvn.cc/home/vihara.htm>」
- 平成24年 人口動態統計月報年計（概数）の概況
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai12/dl/gaikyou24.pdf>
- 厚生労働省大臣官房統計情報部
<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life12/dl/life12-09.pdf> 1月15日現在